

高齢者用肺炎球菌ワクチン予防接種の注意事項

新型コロナウイルスワクチン接種と2週間の間隔をあけてください。

肺炎球菌感染症とは？

肺炎球菌という細菌によって引き起こされます。この菌は主に気道の分泌物に含まれ、唾液などを通じて飛沫感染します。日本人の約3～5%の高齢者では鼻や喉の奥に菌が常在しているとされています。この菌が何らかのきっかけで、気管支炎、肺炎、敗血症などの重い合併症を起こすことがあります。

予防接種の効果

肺炎球菌には 93 種類の血清型があり、定期接種で使用する肺炎球菌ワクチン(ポリサッカライド)は、その内の 23 種類の血清型に効果があります。この 23 種類の血清型は、成人の重症の肺炎球菌感染症の原因の約7割を占めるという研究結果があります。

予防接種を受けることが適当でない人

- ① 明らかに発熱のある人(体温が37.5℃以上の場合)
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることがあきらかな人
- ③ 予防接種液に含まれる成分により、アナフィラキシーショック(通常接種後30分以内に起こるひどいアレルギー反応)を起こしたことがあることが明らかな人
- ④ その他、医師が接種不適切な状態と判断した場合

医師とよく相談して接種を受ける必要のある人

- ① 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害等の基礎疾患を有する人。
- ② 予防接種で接種後2日以内に発熱のみられた人及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を起こしたことがある人。
- ③ 過去にけいれんの既往のある人。
- ④ 過去に免疫不全の診断がされている人及び近親者に先天性免疫不全症の人がいる人。
- ⑤ 接種しようとする接種液の成分に対してアレルギーを起こす恐れのある人。

副反応について

まれに報告される重い副反応としては、アナフィラキシー様反応、血小板減少、ギランバレー症候群、蜂巣炎様反応などがあります。その他の主な副反応としては、倦怠感、違和感、悪寒、発熱、筋肉痛、注射部位の痛み・熱感・腫脹・赤み・硬結等、頭痛、ALT(GPT)上昇等が報告されています。

※予防接種を受けた後30分間は、急な副反応が起こることがありますので、医療機関で様子をみましょう。

※重篤な副作用が生じた場合、高齢者は厚生労働大臣が予防接種と因果関係があると認められた場合に、予防接種健康被害救済制度に基づく救済を受けることができます。

お問い合わせ先： 土岐市保健センター (TEL 55-2010)